

元気

もいもい



宇都宮市立中央小学校
食育だより 1月号



あけましておめでとうございます。昔から『一月往ぬる二月逃げる三月去る』と言われてきたように、年度末に向けて月日が流れるのを早く感じる時期です。体調管理には一層気をつけて、一日一日を大切に過ごしましょう。



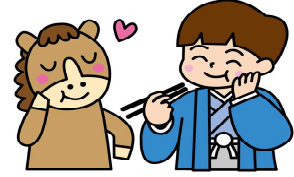
今年はうま年!



うまのように野菜を
たっぷり食べよう!



箸をうまく使いこなして
きれいに食べよう!



よく味わってうま味
を感じよう!

お年玉はもちだった!?



子どもたちにとって、お正月の楽しみといえば、お年玉。もともとは、お正月の『歳(年)神様』にお供えた「もち」を歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、『年玉』とは「歳神様の魂」を意味します。



1月11日は鏡開き



鏡開きはもちを小さく割ってお汁粉などに入れ、無病息災を願って食べる行事です。もちを小さくするのに、包丁など刃物を使うのは縁起が悪いので、木づちや手で割ります。また、割るではなく開くという縁起の良い言葉が使われます。



かがみびら
鏡開き

おなみ
食育劇場
Go!



かがみ
鏡もちをおいしく食べて
今年1年、元気にすごしましょう!

日本の学校給食のあゆみ

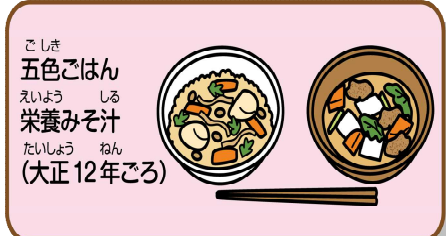
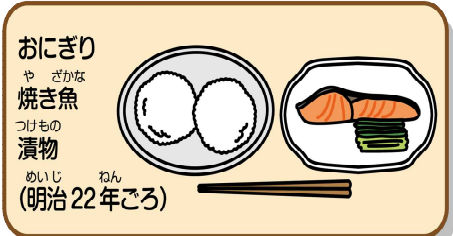


学校給食の始まり



1/24~1/30は
「全国学校給食週間」です

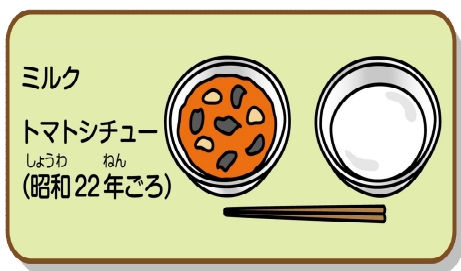
明治22年（1889年）、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもへ食事提供が始まりとされています。この学校は大
督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意しまし
た。大正12年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広が
りましたが、戦争による食糧不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



支援物資による学校給食の再開



戦後、子どもの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21年（1946年）12月24日にLARA（アジア救援公認団
体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌年の1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を『学校給食感謝の日』
としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日の1週間を『全国学校給食週間』とすることになりました。



バラエティー豊かな献立内容に



昭和29年に学校給食法が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようにな
りました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯が正式に導入されると、カレーライスや炊込みご飯などが登場
し、献立の内容が充実していききました。



このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、『子どもが飢えることなく、
美味しく食べて、すこやかに成長できるように』と願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて
健康な食生活を送ることができるように、学校給食は、『教材』としての役割も担っています。

《セシウム・放射性ヨウ素検査》

12月に使用したザウルス農園で収穫されたさつまいもで検査をしました。
結果は下限値未満でした。